

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーの取り扱いについて

①2014年3月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL:03-3817-5666)にて承ります。

②それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。

株式会社東亜ブック

〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11

TEL:03-5947-4781 FAX:03-3923-4539

2016年2月号



特集 新生児の疾患とその徴候 見逃してはいけない異常徴候

出生直後の入院中に助産師が感じた「なんとなく具合が悪そう……」という印象が、新生児を疾患から救う第一歩になります。何らかの兆しに気づくことで、高次施設へつなぐ時期が早まるかもしれません。異常徴候を見逃さない、観察のポイントを解説します。

2016年1月号



特集 70巻記念号 『助産雑誌』と私の歩み

1952年の創刊から64年。多くの方々に支えられ70巻を迎えることができました。その記念に、小誌に縁の深い方々に、小誌とのかかわりや、思い出をつづっていただきました。助産師の過去、そしてこれから訪れる未来に、思いを馳せた特集です。

2015年12月号



特集 バースレビューの心得

日本で広く行なわれているバースレビュー。助産師とともにお産をふりかえり、自身の体験を語りたい褥婦がいる一方で、それによって傷つく褥婦も存在します。本特集では、事例とエビデンスをもとに、助産師がバースレビューに取り組む際の心得を再考しました。

2015年11月号



特集 新しい視点で 保健指導を変えよう!

現在の保健指導は19年前の厚生省局長通知に基づいていますが、当時とは妊婦や家族の抱える課題が変化してきているため、見直しの必要性が出てきました。「親になること」と「いのちに向き合うこと」を支援する、新しい視点を取り入れた保健指導を特集しました。

2015年10月号



特集 「特定妊婦」にどうかかわる? 助産師ができる支援とは

出産後の養育について、出産前からの支援が特に必要な「特定妊婦」。本特集では、その概念と必要な対応、助産師による実際の支援の様子を紹介しました。妊娠期から、医療機関が保健・福祉と連携して支援することで、児童虐待の防止にもつながります。

2015年9月号



特集 効果的な実習指導をしよう! 学校とともに学生を支援する

教えられる学生はもちろん、教える実習指導者も多くの学びを得ることができる助産学実習。本特集では、効果的な実習指導を行なうための実習指導者の心得をお伝えします。また、学生を送り出す学校側、学生を受け入れる施設側双方の取り組みも紹介します。

2015年 特集

8月号 妊娠高血圧症候群2015 知識と支援をアップデートしよう!

7月号 助産師が専門職としてかわるべき母乳育児支援 「寄り添う」とはどうすることか

6月号 地域でつくる妊娠から育児までの切れ目ない支援 今、注目の日本版ネウボラとは

5月号 女性が主体的に産むための助産ケア

4月号 産婦の身体の声をしる アセスメント能力を高めよう

3月号 ペリネイタル・ロスのケアを考える

2月号 助産師がしっかり実施したい新生児蘇生法(NCPR)